

週間展望(3/21～3/27)

～ WEEKLY FORECAST ～

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

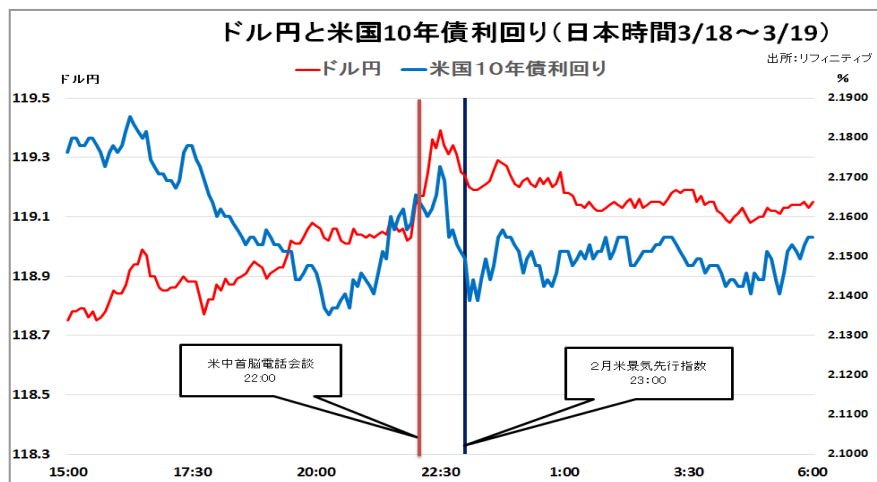
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「ドル円は、三角保合いを上放れて上げ加速。一目均衡表で言う「Y字型」波動の上限を試す流れへ。一方のユーロドルは、3月7日安値を起点に自律反発を入れたものの、2021年5月高値を起点とした下降チャネル内での動きが継続している。3月安値を維持できるか否かが焦点」としたが、先週のドル円は、119円台へ続伸。FOMCでは予想通り0.25%利上げを開始、資産縮小についての示唆もありタカ派的な内容だったが、発表後は「知ったら終い」で、株式市場が堅調に推移し、ドル買いは一服となった。
- 一方、日銀金融政策決定会合で、大規模な金融緩和策の維持を決めた。黒田東彦総裁は金融引き締め必要性を否定した。

ドル円、保合い上放れ

- 先週末のドル円は、FRB高官が金融引き締めに向きながらタカ派寄りの見解を示し、円売り・ドル買いが強まった。ウォラーFRB理事は18日の米CNBCのインタビューで、インフレ抑制に向け積極的な利上げの必要性を主張し、0.50%の大幅利上げを複数回実施する可能性に言及。セントルイス連銀のブラード総裁は18日公表の声明で、年内のあと6回の会合のうち5回で0.50%の利上げを支持する考えを示した。リッチモンド連銀のパーキン総裁も講演で0.50%の利上げ余地があるとの認識を示した。
- CFTC建玉明細(3/15現在)によると大口投機玉は、62,340枚の売り越し。前週(55,856枚の売り越し)から拡大。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ドル円～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

黒田シーリングの攻防

- ドル円は、一目均衡表で言う「Y字型」波動の上限も上抜き、120円を試す動きだが、2015年6月、ドル円が124円台で推移していた際に、「(実質実効為替レートからみて)ここから、更なる円安はありそうにない」と黒田日銀総裁が円安牽制を行った。この時の黒田総裁発言が「黒田シーリング」と呼ばれ、円安の限界ラインとして意識されている。



- 足もとのドル円は、3月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、2018年12月以来となる利上げを決定し、政策金利見通しで、今回を含む年内の利上げ回数予想は7回(前回12月の会合では3回)だったこともあり、三角保合い上げれ以降のドル買いの流れが続いている。
- 心理的節目120円～黒田シーリング水準が意識されていると同時に、警戒感も高まっている。通貨市場において、満月の18日～21日はメリマンの重要変化日。トレンド加速or反転に注意したい時間帯となる。
- 120円を上抜いてくると、2015年に三尊となった肩(121.68円・123.68円)、頭(125.85円)が上値ターゲット。黒田日銀総裁からは強い牽制がなく、上値の限度を試す流れも、ロシア・ウクライナ停戦協議の行方次第では、ユーロ主導で巻き戻しの動きも要想定。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 貴金属市場(金：GOLD) ～

調査課
菊川 弘之


【前週レビュー】

調整一服

- 先週レポートで「NY金(4月限)は、1月安値～3月高値までの上昇に対する38.2%押しを達成。半値押し(1929.7ドル)～61.8%押し(1894.5ドル)は価格帯別出来高の厚い下値支持水準。」
- 週足ペースでは、2020年8月高値とのダブルトップが意識されやすい形状となっており、短期的には調整が予想されるが、52週移動平均線乖離率は、過熱感のある原油や、過去の金相場と比較して、落ち着いた水準で、チャート上の底打ちが確認できれば、改めて押し目買いが優勢となるだろう」としたが、先週のNY金(4月限)は、ウクライナの停戦期待や原油安を受けて調整局面を迎えたが、米連邦公開市場委員会(FOMC)後のドル安を受けて下げ一服となった。
- 先週末のNY金(4月限)は、反落。ウォラー米連邦準備制度理事会(FRB)理事が「向こう数回の会合で0.5ポイント利上げを検討すべきだ」と述べたことでドル買い金売りの反応。バーキン米リッチモンド連銀総裁も、インフレが後退しない場合には大幅利上げの余地があるとした。
- ウクライナ情勢に関する米中首脳協議開始前に台湾海峡を中国の空母「山東」が通過し米海軍の駆逐艦が追尾するなど、中国の対米姿勢が明確になってきた。
- CFTC建玉明細(3/15現在)によると大口投機玉は、261,788枚の買い越し。前週(274,388枚の買い越し)から縮小。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 貴金属市場(金: GOLD) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- NY金(週足)は、2020年8月高値とのダブルトップが意識されており、3月11日の週に付けた長い上ヒゲ高値が、目先の天井候補。
- 心理的節目1900ドル～52週移動平均線が下値支持帯。
- 一方、JPX金(週足)は、円安進行で2020年8月高値を上抜いており、同水準が下値支持に変化している。



底打ち確認できれば、
押し目買いで対処したい

- 現段階では、チャートパターンの明確な底打ち確認ができない状況で、心理的節目1900ドルを維持できないと、2021年12月安値～2022年3月高値までの上昇に対する61.8%押し(1878.9ドル)までの下げも想定されるが、18日は安値の節目を付けやすい満月の時間帯。一目均衡表の基本数値(9)とも重なり、底打ち確認はできないものの、底値圏に接近中であると言える。
- インフレ警戒と共に、FRB政策ミスリスクも継続する。長大陽線や長い下ヒゲ形成などの底打ちパターンが出現すれば、試し買いの好機となるか？200日移動平均線は、強い下値支持線である。
- 過去の米利上げ局面では、利上げまでは利上げを嫌気して金相場の上値は抑えられるものの、利上げ開始後は「知ったら終い」で反発する傾向が確認される。
- ロシア・ウクライナの停戦協議がまとまれば、再度、下値を試す動きも想定されるが、中国は米国との対峙姿勢を明確にしており、ドル覇権体制の揺らぎに対するヘッジ買いは継続しそう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 貴金属市場(白金: Platinum) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

■ 先週レポートで「ポール・ウィルソンCEOは、ロシアによるウクライナ侵攻については、現時点では影響を予測することは困難としたが、ロシアからのパラジウムの供給が停止する早期の兆候があり、プラチナ需要が増加する可能性がある」とした。先週のNY白金(4月限)は、原油や金の急落を受けて軟調となったが、安値拾いの買いが入ったことや、FOMC後のドル安株高を受けて下げ一服となった。



- 「白金-金」の鞘は、「金買い・白金売り」継続も、 -2σ 突破で短期的な自律反発に入っている。
- 先週のNY白金(4月限)は、続伸。ウクライナ戦争が始まった後、米株価指数は下値探りとなっていたものの、下げが一服し戻り歩調となっていることがプラチナの工業用需要の回復期待を高めた。金融引き締めや物価上昇に耐え、米経済が拡大を続けると期待されている。
- CFTC建玉明細(3/15現在)によると大口投機玉は、17,932枚の買い越し。前週(25,833枚の買い越し)から縮小。

株高を受けて
白金は下げ一服

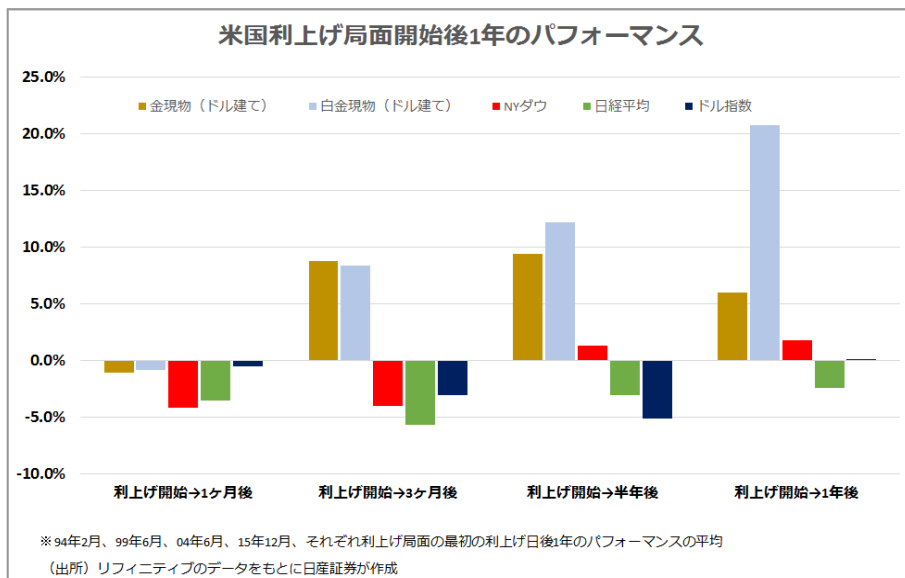
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 貴金属市場（白金：Platinum）～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 94年2月、99年6月、04年6月、15年12月、それぞれの利上げ局面の最初の利上げ日から、1ヶ月後、3ヶ月後、半年後、1年後のパフォーマンス平均を表したものが、上図。株式市場(日経225・NYダウ)と比較すると相対的に金や白金の優位性が確認できる。
- 必ずしも将来の再現性を表すものではないが、今後1年間をかけて、インフレが高止まり、もしくは加速していくなら金相場が、ロシア・ウクライナ間の停戦協議がまとまり、短期的に株高に振れるなら、金との比較で白金の割安感の調整が見られるかもしれない。

停戦協議の行方に注目

- 欧州自動車工業協会(ACEA)によると、2月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比6.7%減の71万9465台となった。1～2月は前年同期比6.4%減の140万1960台。
- ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁は、フランクフルトで開かれた会合で、ECBは債券買い入れによる量的緩和プログラムを終了して10年超ぶりに利上げを再開するまでに「追加の空白期間」を設けていると述べた。
- イングランド銀行が利上げを再開し、米連邦公開市場委員会(FOMC)でも利上げが決定されたが、ECBは利上げを急いでいない事も、ユーロの上値を抑えている。ただ、ロシア・ウクライナ停戦協議が進展するなら、ユーロ安の巻き戻しが起きるだろう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ ゴムRSS3号先物～

調査課
菊川 弘之

【前週レビュー】



- 先週レポートで「3月の月間騰落傾向は、12月～2月と比べると、圧倒的に売り優勢の時間帯。昨年は、ウィンタリングを材料とした買いは3月上旬に終了しており、今年も頭打ちした可能性は高い。円安が下値支持要因となっているが、118円台後半～120円は強い抵抗帯」としたが、先週のRSS3号は、前半は上海ゴムに連れ安したものの、週半ばに中国が「不動産税」の試験導入について、来年以降に延期すると発表。中国政府や共産党内に不動産税導入への不満は強く、秋の共産党大会に向けて安定を優先させた模様で、中国株式・商品市場が反発、上海ゴムも下落一服となり、JPXゴムも円安が約6年ぶりの水準にまで進行したこともあり、反発となった。

- 全国生ゴム営業倉庫は、2月28日現在11,763トン(前旬比431トン増)。
2月下旬の入出庫は入庫928トン、出庫497トン。

【今週見通し・戦略】

- 中国自動車工業協会(CAAM)が3月11日に発表した2月の国内自動車販売台数は、前年同月比18.7%増の174万台となり、2カ月連続で前年同月を上回った。また、10日に中国自動車流通協会(CADA)から発表された2月の中古車取引台数も同12.7増の107万6800台となっており、昨年は不調だった中国の自動車販売は底入れした感触。
- 先限は250円の攻防が焦点。8月限は240円の攻防が焦点。それぞれ割り込むと、弱気感が増す。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 穀物市場(大豆・コーン) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「国連食糧農業機関(FAO)は11日、ロシアのウクライナ侵攻で「世界の需給ギャップが食料・飼料の国際価格を8～22%押し上げる可能性がある」と指摘している」としたが、先週のシカゴ穀物は、依然としてウクライナ情勢に対する警戒感が強く下値堅く、高値圏で推移。
- 先週末のシカゴ穀物は、ロシアとウクライナの停戦協議に関して、ロシア側が非武装化交渉の5合目に到達したと述べたことで小麦が再び急落したことに圧迫されて、期近から再び崩れた。ただ新穀限月は小幅高で引けるものが多く、まちなちの展開。この日国際穀物理事会(IGC)が世界生産高や期末在庫見通しを上方修正したことも期近の圧迫要因となった。
- CFTC建玉明細(3/15現在)によると大口投機玉は、217,599枚の買い越し。前週(216,577枚の買い越し)から拡大。コーンが507,206枚の買い越し。前週(498,033枚の買い越し)から拡大。
- 週間純輸出成約高(3月10日までの週)

大豆:173万0200トン(事前予想レンジ:70万～150万トン)

コーン:204万0400トン(事前予想レンジ:50万～190万トン)

【今週見通し・戦略】

- 国際穀物理事会(IGC)は、世界コーン生産高見通しを12億0700万トンとして、前月から400万トン上方修正した。また期末在庫も600万トン上方修正した。
- 今年の米国産の作付意向面積に加えて、ロシア・ウクライナ停戦協議の行方が焦点。本格的な天候相場が始まる前に、大きめの調整が入れば、夏に向けての買い場となろう。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

調整一服、自律反発

- 先週レポートで「北京パラリンピックも終了し、中国による仲介も期待される。株式市場が「彼岸底」となれば、季節的にはドライブシーズンに向けて、夏高パターンをとりやすい銘柄で、投機的ポジション整理後は、再び押し目は買われそうだ」としたが、先週のNY原油(4月限)は、米エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫が増加した事などを嫌気して続落したが、15日に安値を付けた後は、国際エネルギー機関(IEA)月報で「ロシアのウクライナ侵攻によって過去数十年間で最も深刻な供給危機になりかねない」と指摘したことなどから下値を切り上げた。
- 週末のNY原油(4月限)は、続伸した。ロシアに対する制裁で、ロシアからの供給量が大幅に減少していることが相場を押し上げた。ロイター通信が18日に石油輸出国機構(OPEC)加盟国や非加盟の主要産油国からなる「OPECプラス」の2月の生産量が目標に達しておらず、増産が想定ほど進まなかったと報じた。
- 石油サービス会社ベーカー・ヒューズが18日に発表した米国の石油生産向け掘削設備(リグ)稼働数が前週から3基減ったのも米シェール企業の増産の遅れを意識させた。
- 調整含みだった米株式市場が戻りを試していることも支援要因。インフレ高進や金融引き締めに耐え、コロナ後の米経済の拡大が続き、石油製品需要が堅調に推移すると期待されている。ウォラー米連邦準備制度理事会(FRB)理事が「向こう数回の会合で0.5ポイント利上げを検討すべきだ」と述べたことは材料視されず。
- CFTC建玉明細(3/15現在)によると大口投機玉は、341,815枚の買い越し。前週(361,665枚の買い越し)から縮小。

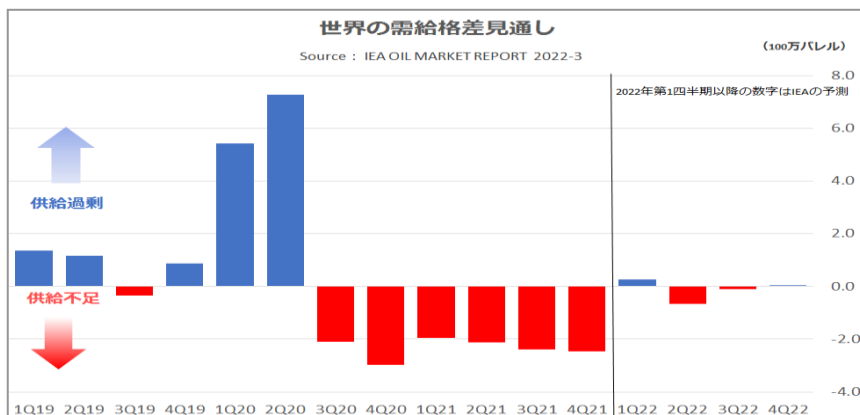
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(3/21～3/27)

～ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ～

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 国際エネルギー機関 (IEA) 月報によれば、ロシアの4月の原油生産量は約25%減少する可能性。ロシアのウクライナ侵攻で買い手が同国産原油を敬遠しており、数十年ぶりの深刻な供給ショックに見舞われる恐れがあると警告した。
- 「想定されるロシア産原油輸出減に伴う影響は軽視できない」と指摘、「事態の展開を知るには時期尚早だが、今回の危機がエネルギー市場に長期的な変化をもたらす可能性がある」との見方を示し、ロシアの原油生産が4月から日量300万バレル減の860万バレルと試算。4～6月期は日量40万バレルの供給が不足する見通し。
- NY原油(4月限)は、2021年12月安値～2022年3月高値までの上昇に対する半値押しで下支えられ反発。61.8%押し～半値押し水準は、価格帯別出来高の厚い下値支持帯である。
- サウジアラビアのサルマン皇太子が岸田首相との電話会談で、「OPECプラス」が増産合意を維持する重要性を協調し、追加増産を否定したことも手ごかり。バイデン政権になって以降、中東諸国との溝が出来ていることもあり、「OPECプラス」で生産余力があるサウジアラビアやアラブ首長国連邦(UAE)が現段階では、ロシアの大幅減産を穴埋めする構えは見せていない。
- 米シェール増産期待もあるものの、有力シェール業者「Pioneer Natural Resources」のCEO(Scott Sheffield)は、「5%以上の増産は行わない」と述べている。一定程度の高価格帯で収益をあげたいとの思惑もありそう。
- 暖房油需要はピークアウトしており、ロシア・ウクライナ停戦や、イランの核合意復帰協議がまとまれば、一時的にもう一段安があってもおかしくはないが、アフターコロナでジェット燃料の需要増加が期待される中、夏場のガソリン需要最盛期に向けて、中東の地政学リスクも燃っていることもあり、春先に出る原油の安値は、夏高に向けての買い場を提供することになるかもしれない。

調整後は、夏高か？

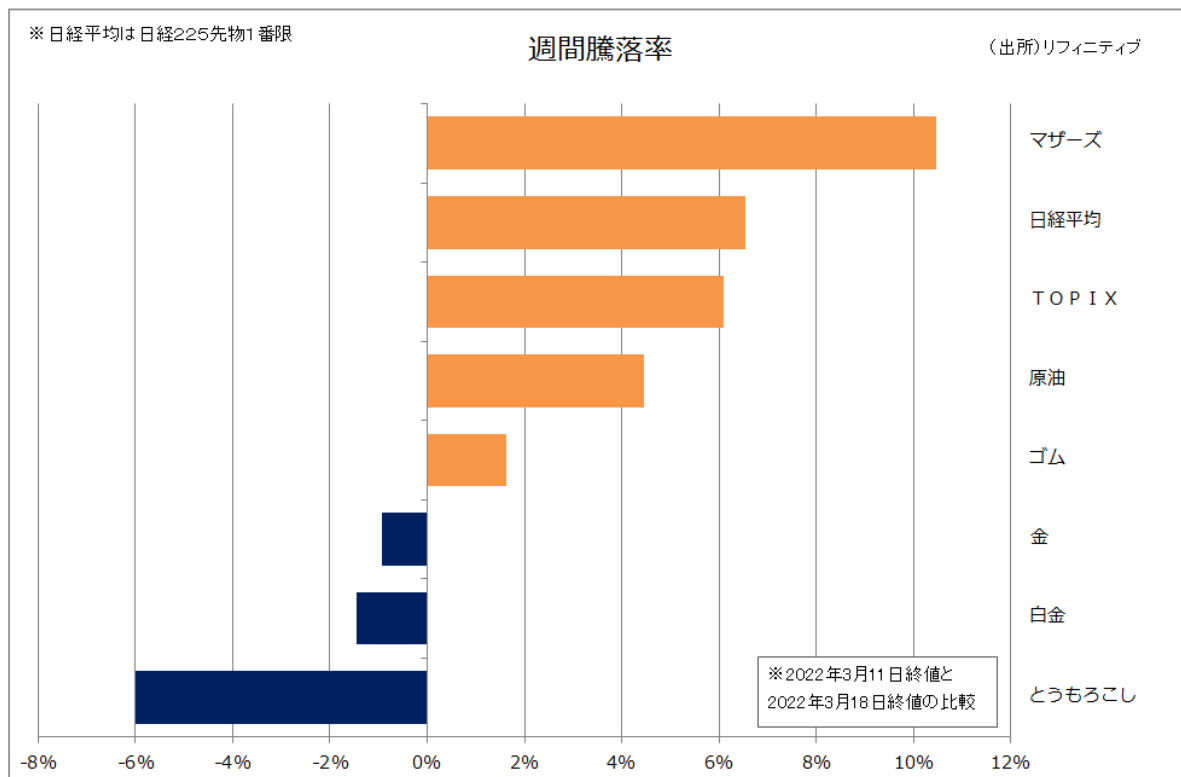
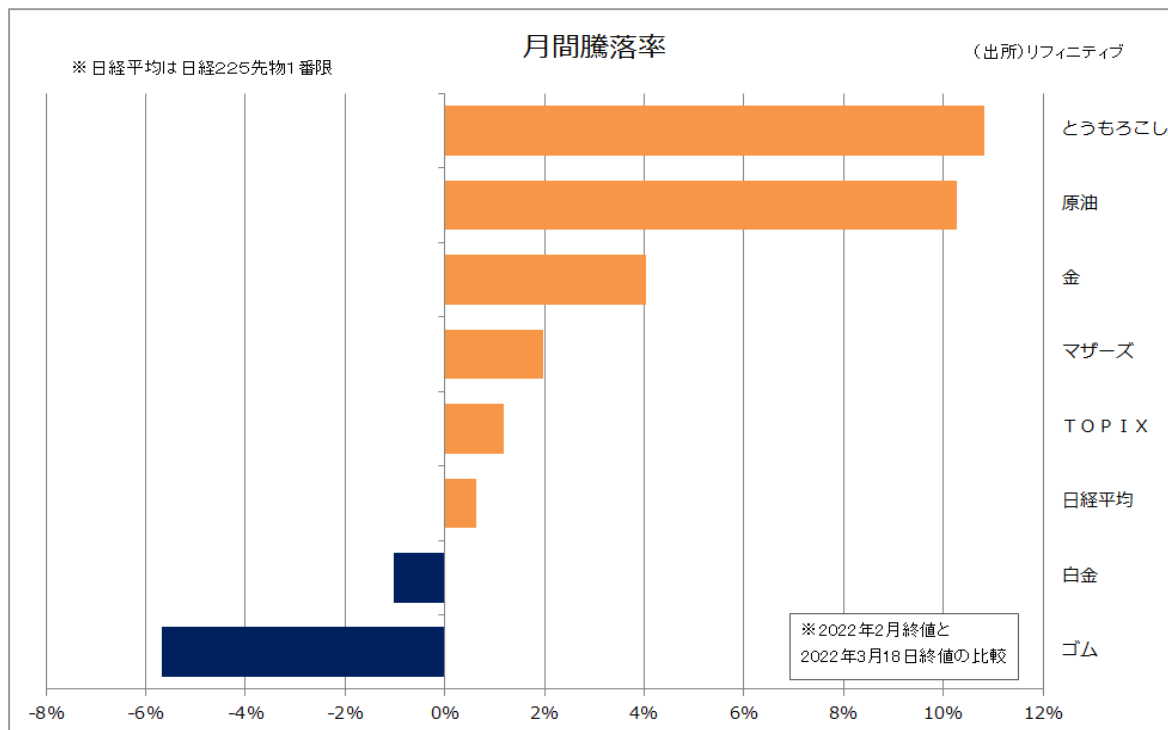
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりませんが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(3/21~3/27)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
3月21日(月)	16:00	ドイツ	2月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	25
	20:00	英国	3月	CBI 小売売上高	14
	20:00	英国	3月	CBI 動向 - 受注	20
	休場	日本	---	春分の日	
3月22日(火)	納会	米国	---	NY原油2022年4月限納会	
3月23日(水)	16:00	英国	2月	生産者物価投入指数 (PPI) (前年比) 原数値	13.6%
	16:00	英国	2月	生産者物価産出指数 (PPI) (前年比) 原数値	9.9%
	16:00	英国	2月	生産者物価指数 (PPI) コア産出指数 (前年比) 原数値	9.3%
	17:30	ドイツ	3月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.4
	17:30	ドイツ	3月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.8
	17:30	ドイツ	3月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.6
	23:00	米国	2月	新築住宅販売戸数	0.801 (百万)
	---	---	---	ECB理事会	
3月24日(木)	0:00	ユーロ圏	3月	消費者信頼感指数 速報値	-8.8
	18:00	ユーロ圏	3月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.2
	18:00	ユーロ圏	3月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.5
	18:00	ユーロ圏	3月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.5
	18:30	英国	3月	総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	59.9
	18:30	英国	3月	製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	58.0
	18:30	英国	3月	サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	60.5
	21:30	米国	Q4	経常収支	-214.8 (十億)
	21:30	米国	2月	耐久財受注	1.6%
	21:30	米国	2月	耐久財受注 輸送機器除く	0.7%
	21:30	米国	Q4	国内総生産 (GDP) 確報値	
	21:30	米国	Q4	国内総生産 (GDP) デフレーター 確報値	
	21:30	米国	Q4	コア 個人消費支出 (PCE) 価格 確報値	
	21:30	米国	月14日, 週3	新規失業保険申請件数	214 (千)
	21:30	米国	月7日, 週3	継続失業保険受給総数	1,419 (百万)
	22:45	米国	3月	マークイット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	55.9
	22:45	米国	3月	マークイット 製造業購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	57.3
	22:45	米国	3月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 速報値	56.5
3月25日(金)	8:30	日本	3月	東京都都区部コア消費者物価指数 (CPI) (前年比)	0.5%
	8:30	日本	3月	東京都都区部消費者物価指数 (CPI) 総合 (前年比)	1.0%
	9:01	英国	3月	Gfk 消費者信頼感指数	-26
	16:00	英国	2月	小売売上高 (前年比)	9.1%
	16:00	英国	2月	小売売上高 除燃料 (前年比)	7.2%
	18:00	ドイツ	3月	IFO 業況指数 (新)	98.9
	18:00	ドイツ	3月	IFO 現況指数 (新)	98.6
	18:00	ドイツ	3月	IFO 期待指数 (新)	99.2
	18:00	ユーロ圏	2月	マネーサプライ M3 伸び率 (前年比)	6.4%
	23:00	米国	3月	ミシガン大 消費者信頼感指数 確報値	59.7
	23:00	米国	2月	中古住宅販売仮契約指数 (前月比)	-5.7%
	4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細	
	納会	日本	---	ゴム(RSS3)先物2022年3月限納会日	
	納会	日本	---	東京石油製品2022年3月限納会日	
3月26日(土)					
3月27日(日)					

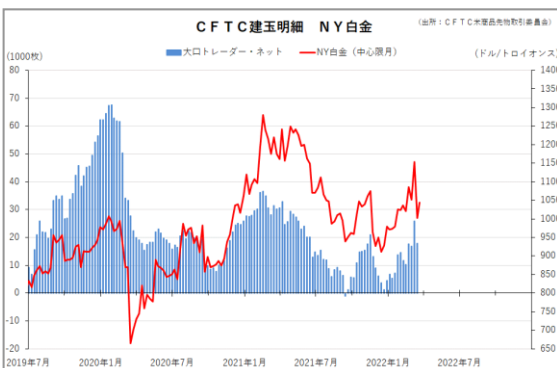
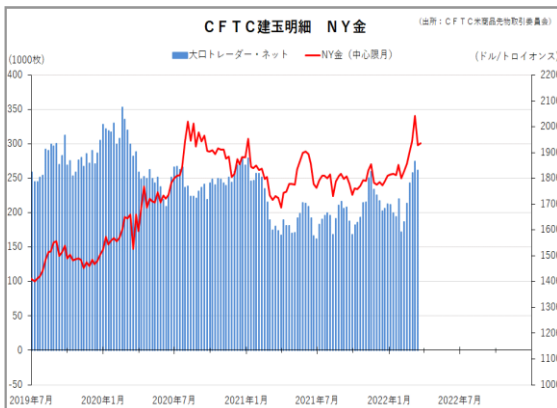
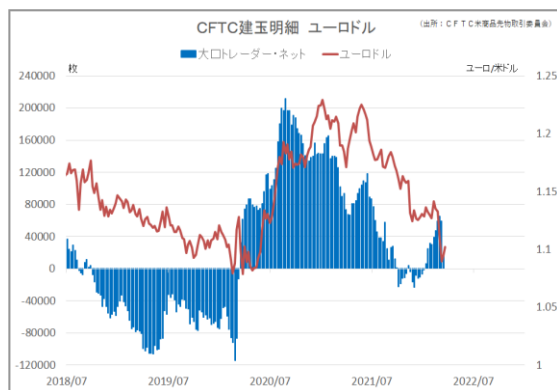
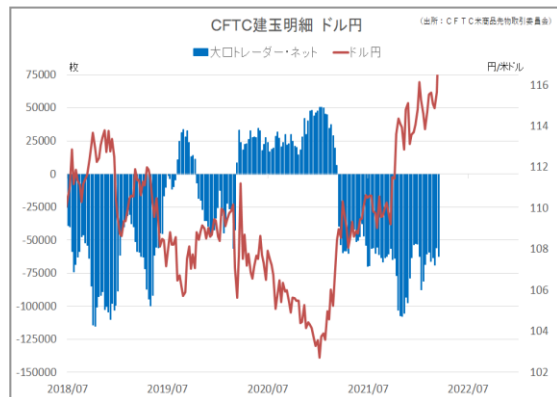
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社 に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【CFTC建玉明細】



ドル円				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	10,425	76,587	-66,162	115.62
2022/2/22	10,976	74,163	-63,187	115.08
2022/3/1	14,665	83,397	-68,732	114.89
2022/3/8	15,548	71,404	-55,856	115.66
2022/3/15	34,016	96,356	-62,340	118.28
前週比	18,468	24,952	-6,484	2.62

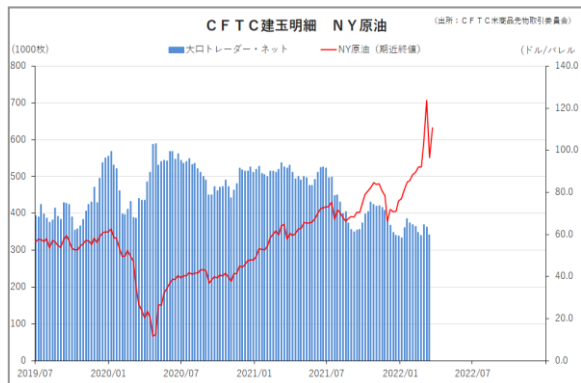
ユーロドル				
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	217,899	170,318	47,581	1.1356
2022/2/22	214,195	154,889	59,306	1.1325
2022/3/1	228,385	163,446	64,939	1.1126
2022/3/8	242,683	183,839	58,844	1.0899
2022/3/15	202,040	183,246	18,794	1.0951
前週比	-40,643	-593	-40,050	0.0052

NY金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	313,269	99,656	213,613	1856.2
2022/2/22	350,096	106,948	243,148	1907.4
2022/3/1	354,177	96,555	257,622	1943.8
2022/3/8	364,618	90,230	274,388	2043.3
2022/3/15	346,731	84,943	261,788	1929.7
前週比	-17,887	-5,287	-12,600	-113.6

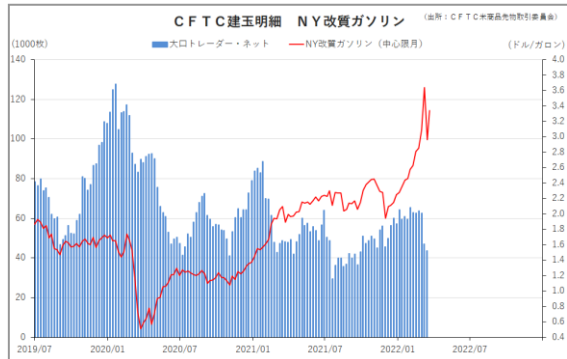
NY白金				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	28,217	18,085	10,132	1020.4
2022/2/22	32,462	14,922	17,540	1086
2022/3/1	33,902	17,012	16,890	1051.9
2022/3/8	41,758	15,925	25,833	1153.2
2022/3/15	33,833	15,901	17,932	1002.5
前週比	-7,925	-24	-7,901	-150.7

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

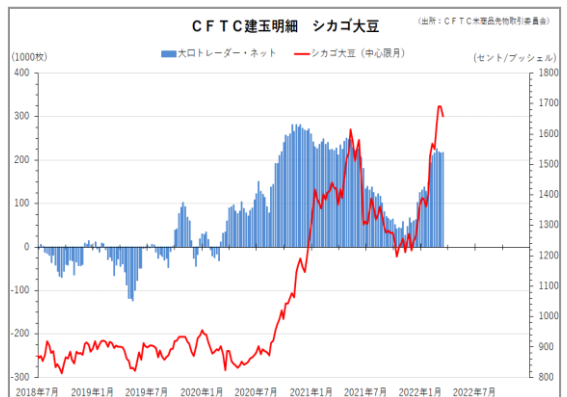
【CFTC建玉明細】



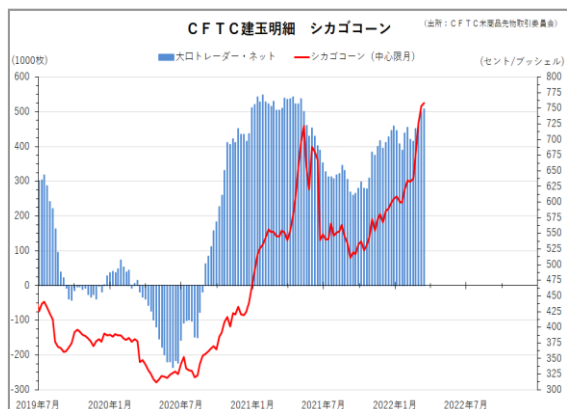
NY原油				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	458,819	110,726	348,093	92.07
2022/2/22	442,102	103,061	339,041	91.91
2022/3/1	465,365	96,702	368,663	103.41
2022/3/8	455,339	93,674	361,665	123.7
2022/3/15	444,601	102,786	341,815	96.44
前週比	-10,738	9,112	-19,850	-27.26



NY改質ガソリン				
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	108,035	45,439	62,596	2.8095
2022/2/22	106,356	42,769	63,587	2.8543
2022/3/1	97,185	34,742	62,443	3.0887
2022/3/8	82,887	35,987	46,900	3.6392
2022/3/15	76,383	32,781	43,602	2.9657
前週比	-6,504	-3,206	-3,298	-0.6735



シカゴ大豆				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	261,666	44,934	216,732	1551.25
2022/2/22	274,012	47,548	226,464	1635.00
2022/3/1	264,899	45,992	218,907	1690.00
2022/3/8	263,044	46,467	216,577	1689.75
2022/3/15	265,949	48,350	217,599	1658.75
前週比	2,905	1,883	1,022	-31.00



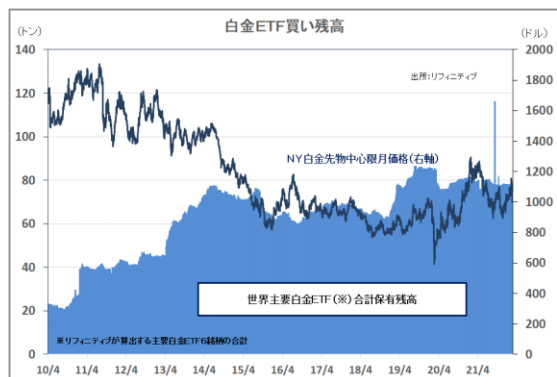
シカゴコーン				
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2022/2/15	510,734	96,242	414,492	638.00
2022/2/22	536,898	85,156	451,742	674.75
2022/3/1	531,633	70,695	460,938	725.75
2022/3/8	558,302	60,269	498,033	753.00
2022/3/15	571,419	64,213	507,206	758.00
前週比	13,117	3,944	9,173	5.00

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金・白金ETF】

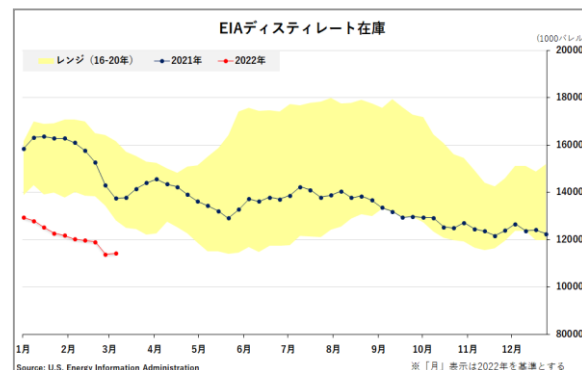
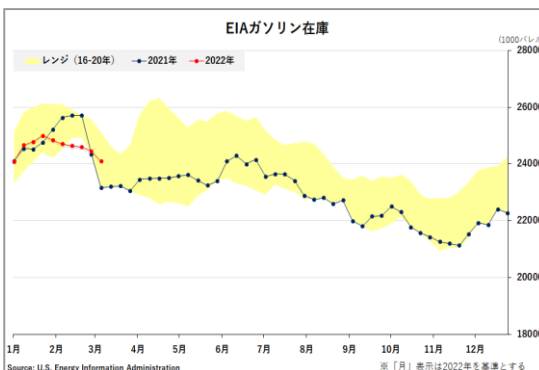
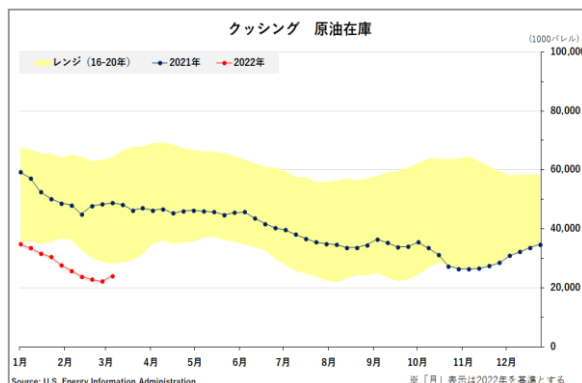
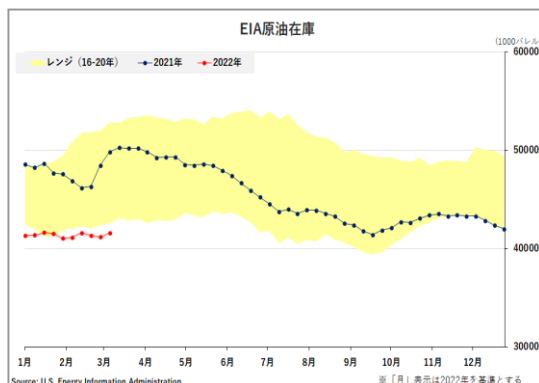


日付	金保有高(トン)	前営業日比
2022/3/21	1082.44	±0
2022/3/18	1082.44	+9.00
2022/3/17	1073.44	+2.91
2022/3/16	1070.53	+8.70
2022/3/15	1061.83	-2.32
2022/3/14	1064.15	±0
2022/3/11	1064.15	+2.61



日付	白金保有高(キログラム)	前営業日比
2022/3/21	75,999.16	-135.83
2022/3/18	76,134.99	-352.28
2022/3/17	76,487.27	-480.74
2022/3/16	76,968.01	-53.90
2022/3/15	77,021.91	-57.70
2022/3/14	77,079.61	-111.82
2022/3/11	77,191.42	-0.12

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社（〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11）

関東財務局長（金商）第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。